



文京区  
シンボルマーク

▲区制70周年を契機に  
制定した区のシンボ  
ルマークです。

No.1731



文の京  
(ふみのみやこ)

# 区報 ふみきよ

## 新春対談

ゲスト  
山下 泰裕さん

令和2年  
(2020)

1/1

毎月10・25日発行

発行/文京区 編集/企画政策部広報課  
〒112-8555 文京区春日1-16-21

代表 ☎ (3812) 7111  
https://www.city.bunkyo.lg.jp/



あけましておめでとうございます  
2020年の新春対談では、公益財団法人日本オリンピック委員会会長兼、公益財団法人全日本柔道連盟会長山下泰裕氏を迎え、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会に向けて大会への取組等を成澤区長と語り合っていました。  
※この対談は、1月1日(祝) 13時～15時(金)午前9時10分午後0時10分、午後6時10分午後9時10分からの文京区民チャンネルで放映します。  
問 広報課 ☎ (5803) 1128

**司会** あけましておめでとうございます。  
**山下泰裕氏(以下「山下」)**・成澤区長(以下「区長」) おめでとうございます。  
**司会** お二人に新春のご挨拶を頂戴したいと思います。  
**区長** 2020年は、東京2020オリンピック・パラリンピック

**山下** いよいよ今年は自国開催の東京2020大会の年でございます。オリンピック・パラリンピック、力を合わせて、多くの国民の皆様が夢や感動、希望、誇りを感じてもらえるような、そんな熱い戦いにしていきたいと思っております。どうぞよろしくお祈りいたします。

**司会** 山下会長はどんなお子さんでしたか。  
**山下** 体が大きかったです。小学1年生で既に6年生並みの体つきで、元気がありました。しかも、性格的にも負けず嫌いで、何でも1番でなければ嫌でした。それから、柔道を始めたのは9歳からです。私のことが怖くて学校に行けないクラスメイトがいました。両親はそこまで周りに迷惑をかけているとは思っていませんでした。柔道で、心配して考えついたのが、柔道をさせることでした。

**司会** 柔道との出会い、すばらしい恩師との出会い、そういったものが私を変えて、私の人生を変えていったような気がします。  
**司会** そういった幼少期の出来事があり、結果につながってきたわけですね。区長はどんなお子さんでしたか。  
**区長** 山下会長が負けず嫌いの一番手だとすれば、私は常に二番手、三番手でもいいかなという、おとなし目ですんなりに目立つ子ではなかったなと思います。今、区民の先頭に立っている私からすると、区民の皆さんは「どうだったのか」と思われるかもしれません、私はそんな感じの子でもした。

**司会** 9歳のときに柔道を始めた山下会長ですが、中学・高校と、めきめき力をつけられ、高校3年生で全日本柔道選手権に出場して、第3位という結果でした。その後活躍は続き、全日本柔道選手権大会9連覇など輝かしい記録を打ち立てておられます。区長も山下会長の活躍をご覧になってきたかと思いますが、どんな場面が記憶に残っていますか。  
**区長** 1984年のロサンゼルスオリンピック、山下会長が金メダルを取られたときですね。あの大会は、今でもオリンピックを振り返るような番組があると映像が流されますし、山下会長の現役時代を知らない子でも、知っていると思います。

**司会** 区長は、ロサンゼルスオリンピックの出場に至るまでの山下会長についてもご存じでしたか。  
**区長** ロサンゼルスの前がモスクワのオリンピックのボイコットです。平和の祭典だといわれるオリンピックが政治によって左右されました。また、ベルリンのオリンピックは第一次世界大戦によって大会そのものが中止になり、モスクワのオリンピックは、開催されたのに出場できなかったことを鮮明に覚えています。

**司会** 日本が不参加になったというのを聞いたときには、どういった心境でしたか。  
**山下** モスクワオリンピックの代表を決める全日本団体別選手権大会の前日に決まり、正直に言ってしまうと、目の前が真っ暗になりましたね。

**司会** 今まで経験していないぐらいの衝撃という感じですか。  
**山下** 私のこれまでの人生の中で、一番のショックな出来事かもしれないですね。ただ、翌日に試合があり、オリンピックの不参加が決まったからといって、さまざまな試合だったと言われたくない、思われたくない。だから、何とか自分を奮い起こして大会に参加しました。

**司会** その4年後、日本の代表となり、ロサンゼルスオリンピックに臨まれるわけですが、山下会長は2回戦で西ドイツの選手と対戦

### あけましておめでとうございます

新たな年の始まりを迎え、謹んでご挨拶申し上げます。

区民の皆様には、日頃から区政運営に対しまして、ご理解とご協力を賜り、心より感謝申し上げます。

いよいよ本年、東京2020オリンピック・パラリンピック競技大会が開催されます。本区はこれまでも、様々な取組や事業を通じて、東京2020大会に向けて気運の醸成に努めてまいりました。さらに、大会を間近に控えた5月には、東京2020NIPPONフェスティバル共催文化プログラムに位置づけた競技かるた事業を実施するほか、7月には聖火リレーに伴う記念事業を開催するなど、区一丸となって、東京2020大会を盛り上げてまいります。

令和2年度の主な施策としては、今後も増加が見込まれる子育て世代への対応として、私立認可保育所の開設を中心とした待機児童対策を引き続き推進するとともに、指導検査及び巡回指導を両輪とした指導体制を強化することで、保育の質の向上に努めてまいります。

また、ひきこもりの長期・高齢化に伴う、いわゆる「8050問題」が社会的な問題となっていることを受け、ひきこもり状態にある本人やその家族を支援するため、複合的な課題に一元的に対応する総合的な相談支援体制を構築してまいります。

さらに、緊急輸送道路から避難所等までを結ぶ短区間の「緊急道路障害物除去路線」について、無電柱化に向けた検討を行うほか、区立公園や児童遊園への防犯カメラの設置、災害情報システムの再構築事業等、安全・安心への取組を進めるなど、各分野での課題に応じた施策を適切に展開してまいります。

さて、平成22年に策定した基本構想は、本年6月に、計画期間である「おおむね10年」を迎えます。この間、3期にわたる基本構想実施計画を着実に遂行し、本区の将来都市像である「歴史と文化と緑に育まれたみんなが主役のまち『文の京』」の実現に向けて取り組んでまいりました。

現在、新たな行政計画として、「文の京」総合戦略の策定を進めております。総合戦略では、基本構想の根幹となる「基本構想を貫く理念」と「将来都市像」を継承するとともに、多様性を増す行政需要に的確に対応し、将来にわたり持続可能で豊かな地域社会を構築していくために、これまで以上に、迅速かつ柔軟に区政課題を解決する体系にしております。

ただいま、区ホームページ等で総合戦略の素案をご覧いただけますので、皆様のご意見をお聞かせいただきたいと思います。

今後も、様々な世代を支える施策に全力で取り組んでまいりますので、皆様の一層のご理解とご協力をお願い申し上げます。

本年が、区民の皆様にとりまして、希望に満ちた明るい一年となりますよう心からお祈り申し上げ、新年のご挨拶といたします。

文京区長 **成澤廣修**

☆区報1月1日号は新聞(朝日、毎日、読売、産経、東京、日本経済、日刊スポーツ、スポーツニッポン、スポーツ報知、サンケイスポーツ、デイリースポーツ、東京中日スポーツ)折り込みで区内世帯に配布しています。そのほか、区の施設に置いてあります。



山下泰裕 (やました やすひろ) (公財)日本オリンピック委員会会長、(公財)全日本柔道連盟会長、東海大学副学長。昭和32年(1957)、熊本県生まれ。東海大学入学後の1977年から1985年に現役を引退するまで203連勝の記録を持ち、全日本柔道選手権9連覇も達成。1984年ロサンゼルスオリンピック競技大会無差別級金メダル。同年、国民栄誉賞受賞。



がんばれ!ニッポン!

した際に、右ふくらはぎの肉離れを起こしてしまい、歩くことさえ困難な状態になってしまいました。満身創痍な体でたどり着いた決勝の大舞台、\*ラッシュワン選手との決勝戦はどんな気持ちで臨まれましたか。

山下 私への質問で一番多い質問がラッシュワン選手との決勝の質問です。ラッシュワン選手が足を攻めたのか、攻めなかったのか、こういう話がよく出ますが、一言で言うと、彼は正々堂々と真っ向から勝負を挑んできました。私がをしようとか引きずり回そうとか、あるいはけがをしているからそこは攻めないということではなく、正々堂々と彼は戦いを挑んでました。ただ、ラッシュワン選手は、絶対勝てると思っていてと思います。試合が始まって、組み合った瞬間にラッシュワン選手は技をかけてきました。彼が私の左足に向かって技をかけたときに、左足を私が引いたら彼が空振りをして、ちよっと手を加えたら、彼が勢い余って倒れました。それを私が押さえ込んで勝ちました。こんな幸運な勝ち方は、多分100回に1回ぐらいしかないような、そんな勝ち方だったと思います。そして、また試合が終わった後、表彰式のときに、当時は優勝者からまず一番高いところに上がります。私が名前を呼ばれたら、彼がすつと出てきて、私に手を貸してくれました。おるときも。私とラッシュワン選手の友情は、今も続いています。

区長 2回戦で対戦した西ドイツの選手もフェアプレー精神にあふれていて、当時の山下会長に声をかけたと聞きました。山下 2回戦が終わって、私が控室に戻ってきて手当てを受けていたとき、彼が、申し訳なさそうな顔をして私のところに来ました。そこで、「山下、君がけがしたのは私のせいなのか。私が何か変なことをしたからけがをしたのか」と尋ねてきました。私は、正直に「このけがは君と何の関係もない。君のせいじゃないよ、何も心配しないでくれ」と言ったら、彼はちよっとほっとした顔をして「ああ、そうか。足痛いだらうけど、頑張ってくれよ」と言って私の控室を去っていききました。今年のオリンピックでもパラリンピックでも、勝った負けただけではなく、日本の選手たちと世界の選手たちの交流が間違いないと繰り返されるでしょう。

司会 山下会長は、中学生のときに、オリンピックをイメージされていて作文に書かれているという話を聞きました。山下 中学2年生のとき「将来の夢」という題の作文で、私は「僕は柔道が大好きだ。一生懸命柔道の稽古に励んで、柔道の強い高校、大学へ行きたい。そして、僕の夢は柔道選手としてオリンピックに出ること。オリンピックに出場してメダルに日の丸を掲げながら君が代を聞きたい」と書きました。普通は、オリンピックに出て金メダルを取りたいと思うんですね。私が小学1年生のときに、1964年の東京オリンピックがありました。あの子の日本選手が活躍して、真ん中に揚がる日の丸、流れる君が代、テレビの前でそれを見ながら感動した記憶が残っています。それが私のオリンピックへの夢になりました。ロサンゼルスオリンピック、一番高いところの上で、中学時代の夢を現実にしたときに私は世界で一番幸せな男なんじゃないかと思えました。

区長 自分の夢を本当に実現できる人は、なかなかいないですからね。山下 国内でも海外でも若い人たちが青少年少女に話しかける機会があるときに話すことは「夢を持つこと、持ち続けること」。その夢は変わってもいいと思います。夢を持つことが自分自身のモチベーションを更に高めさせて、自分の力を前に出させてくれると、私は思っています。私も人生これからという気持ちで、前を向いて夢を持って、後ろを振り返らないで生きていきたいと思っています。

区長 「精力善用、自他共栄」という嘉納先生が遺した言葉がありますね。まさに、今の時代の子どもたちにもそのことの意味を伝えていくことが真の教育につながると思います。山下 嘉納先生は、柔道の創始者だけではなくて、日本体育の父といわれる方です。スポーツ、体育を通して、国民の心を磨き高め、活力ある国民をつくらせていく。学校教育にスポーツを入れるということに対しても非常に尽力されました。大日本体育協会もつくられ、昨年の大河ドラマ「いだてん」で、嘉納先生が団長になって、1912年のストックホルムオリンピックに日本は初めて参加しました。そういった嘉納先生の精神というのは、全日本柔道連盟の会長としても、日本オリンピック委員会(以下「JOC」)の会長としても、しっかりとその精

神や魂を受け継いで血肉にしていく、そんな柔道界でありたいと思います。司会 今年東京2020大会が開催されるわけですけれども、全日本柔道連盟会長としては、どのような思いを抱いていらっしゃいますか。山下 残された期間、これから代表が決まるころもあります。代表に決まった選手は、自分の人生をかけるつもりでオリンピックに向けて準備してほしいと思っています。自国開催のオリンピック・パラリンピックに出場できるのはすごいことです。プレッシャーは感じずに、自分の全てをかけて、そして思い切り自分の夢にチャレンジして輝いてほしいですね。

区長 2015年に文京区が東京2020大会を盛り上げていくというところで、キックオフイベントをシビックホール大ホールで行ったときに、山下会長に講演をしていただきました。そのときは全日本柔道連盟の副会長でいらっしゃいました。その後、会長になられ、そしてJOCを背負うことになる。このような立場になるといことは、想像されていなかったですよ。山下 全く考えていませんでした。司会 今年56年ぶりに東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるといことで、どのような大会にしたいとお考えですか。山下 世界から集まったアスリートたちが、最高のパフォーマンスを発揮できる大会にぜひしたいですね。それから、日本の選手たちには、いろいろな期待がかかると思いますが、周りの期待に応えるためではなく、自分の夢に果敢に挑戦してほしい。そして、その人らしく輝い

「高い目標を持って、失敗しても失敗しても立ち上がって向かっていく」。これは、柔道で実践していることを普段の生活の中でも実践すること、それが柔道です。道場と人生はつながっているのです。嘉納先生も柔道の目的を明確に定められています。柔道を通して、柔道の修行を通して心身を磨き高めて完成する。そしてよりよい社会

文京区と柔道の関わりについて

区長 文京シビックセンターの隣には、柔道の聖地、講道館があります。柔道の創設者の嘉納治五郎先生とも文京区は深いかわり合いがあります。全日本柔道連盟の会長として、山下会長は嘉納先生からどんなことを学ばれましたか。

山下 嘉納先生は、第二次世界大戦の前、私が生まれるずっと前に亡くられています。嘉納先生が目指されたもの、伝えられたこと、そういうことについて私は教えを受けてきたと思っています。今でも一番大事にして

区長 「精力善用、自他共栄」という嘉納先生が遺した言葉がありますね。まさに、今の時代の子どもたちにもそのことの意味を伝えていくことが真の教育につながると思います。

山下 嘉納先生は、柔道の創始者だけではなくて、日本体育の父といわれる方です。スポーツ、体育を通して、国民の心を磨き高め、活力ある国民をつくらせていく。学校教育にスポーツを入れるということに対しても非常に尽力されました。大日本体育協会もつくられ、昨年の大河ドラマ「いだてん」で、嘉納先生が団長になって、1912年のストックホルムオリンピックに日本は初めて参加しました。そういった嘉納先生の精神というのは、全日本柔道連盟の会長としても、日本オリンピック委員会(以下「JOC」)の会長としても、しっかりとその精

神や魂を受け継いで血肉にしていく、そんな柔道界でありたいと思います。司会 今年東京2020大会が開催されるわけですけれども、全日本柔道連盟会長としては、どのような思いを抱いていらっしゃいますか。山下 残された期間、これから代表が決まるころもあります。代表に決まった選手は、自分の人生をかけるつもりでオリンピックに向けて準備してほしいと思っています。自国開催のオリンピック・パラリンピックに出場できるのはすごいことです。プレッシャーは感じずに、自分の全てをかけて、そして思い切り自分の夢にチャレンジして輝いてほしいですね。

区長 2015年に文京区が東京2020大会を盛り上げていくというところで、キックオフイベントをシビックホール大ホールで行ったときに、山下会長に講演をしていただきました。そのときは全日本柔道連盟の副会長でいらっしゃいました。その後、会長になられ、そしてJOCを背負うことになる。このような立場になるといことは、想像されていなかったですよ。山下 全く考えていませんでした。司会 今年56年ぶりに東京でオリンピック・パラリンピックが開催されるといことで、どのような大会にしたいとお考えですか。山下 世界から集まったアスリートたちが、最高のパフォーマンスを発揮できる大会にぜひしたいですね。それから、日本の選手たちには、いろいろな期待がかかると思いますが、周りの期待に応えるためではなく、自分の夢に果敢に挑戦してほしい。そして、その人らしく輝い



▲成澤区長

審査員特別賞  
「夏の庭園」  
(旧安田楠雄邸庭園)  
高橋直子  
改修前の綺麗な夏の光の庭園と邸宅を撮影できました。



審査員特別賞  
「夏詣」  
(湯島天満宮)  
鷹鷲千帆里  
夏詣、という行事があることを初めて知りました。涼しげな風鈴の音に癒され、気がつけば写真を撮っていました。



推薦  
「祝い菊」  
(湯島天満宮)  
鈴木信行

湯島天満宮で開催されていた菊を見に行きました。懸崖作りが並ぶ渡り廊下の前を新婦さんが巫女さんと一緒に進んできました。



特選  
「藤代峠で一休み」(六義園)  
小海桂子  
娘たちと夏休みの自由研究で訪れた時の写真です。故郷和歌山の藤白山から東京を眺めているように感じる不思議な場所です。



あけましておめでとうございます。今年区民写真館は第58回文京区観光写真コンクールに入賞された皆さんの作品をご紹介します。(敬称略、カッコ内は撮影場所)



▲あすチャレ！運動会の様子

ンジしてほしいです。  
**司会** 区長、文京区と東京2020大会のかかりについて教えていただけますか。

**区長** 今大会では、文京スポーツセンターがハンドボールの公式練習会場になっています。

パラリンピックのバドミントンも、同じく文京スポーツセンターが公式練習会場になります。また、区民にパラリンピックの競技を体験してもらうために、昨年も「あすチャレ！運動会」というイベントを行いました。パラリンピック競技を体験してもらうことは非常に重要だと思っています。また、花の五大まつり等、区内で行われるいろいろなイベントで、<sup>2</sup>ポッチャの体験コーナーを行っています。このようにパラリンピックの競技についても、区民の理解を深めていきたいと思っています。

**司会** 山下会長は、パラリンピック競技大会については、どのようなイメージをお持ちでしょうか。

**山下** 今回の東京2020大会は、オリンピック・パラリンピック一体です。私が選手強化部長のときに、JOCでも2020年に向けて、我々はパラリンピックと心をつなげて同じチームジャパンで戦うことを決めました。オリンピックが終わった後、パラリンピックの選手たちにもエールを送れるような、そんな勢いをパラリンピックにつなげていきたいと思っています。多くの国民の皆さんにも、オリンピックだけでなくパラリンピックの会場にも足を運んでもらいたい。

てもらいたい。多くの区民の皆さんにも、この期間中少し不便をおかけするかもしれませんが、ぜひおもてなしの心を持って、積極的に外国からみえの方々と接していただければと思っています。

**区長** 東京2020大会の成功に欠かすことができないことというのは、開催国としては何がありますか。

**山下** 国内はもちろんのこと海外の方からも、「山下、自国開催のオリンピック・パラリンピックにとって欠かすことのできない不可欠な要因というのは、開催国の選手の活躍だ」と言われます。私がJOCの選手強化部長時代に、我々は、金メダル30個という高い目標を掲げました。過去は、1964年の東京オリンピック、それから2004年のアテネオリンピックの16個の金メダルが最高です。決して不可能ではないと思っています。選手たちが生き生きと輝けば、これは達成できると思っています。ですから、果敢に、失敗なんか恐れず、選手たちには自分の夢にチャレ

でいただきたい。2012年ロンドンオリンピックでは、オリンピックでも大成功し、パラリンピックの成功がイギリスの人々の心を変え、意識を変えた。だから、我々もオリンピック・パラリンピック一体で頑張りたい。国民の皆さんにも参加してもらいたい。いろいろな形で関わっていただきたいと思っています。

**区長** スポーツには不思議な力があると云われますけど、山下会長がおっしゃっていた勝ち負けだけじゃないものがオリンピックやパラリンピックの現場では得ることができるわけですね。

**司会** 東京2020大会が終わった後、どのようなレガシーをつくり、それを生かしていくのか。展望がありましたら教えてください。

**山下** 東京2020大会を打ち上げ花火にははいけないです。2020年以降の我々にとつての財産になっていかないと、オリンピック・パラリンピックを開催した本当の価値はないと思います。そういう意味で、いろいろなレガシーがあるかと思えます。私が一番望みたいのは、それをきっかけに国民のスポーツにかかわる機会が増える。「する」、「見る」、「支える」と言われますけれど、スポーツを身近に自らが実践する、そういう社会づくりになっていけばいいと思います。多くの方が東京2020大会に触発されて、自ら体を動かす、勝ち負けではなく楽しく自分を表現する。そういう社会になっていくと日本がよい社会になっていき心身ともに健全な活力ある社会になっていく。関連する団体と協力しながら、JOCとしても、世界で勝つことだけじゃない、多くの国民

民がスポーツを身近に感じるスタートを東京2020大会が終わった後にきつていきたい、アクションを起こしていきたいと思えます。  
**司会** 文京区ではどうでしょうか。

**区長** まさにレガシーというのは、このオリンピック・パラリンピックでよく言われる言葉です。さまざまな種目があって、その最後に、実は最終種目が「文化」とオリンピックは言われているそうですね。スポーツだけではなくて、文化・芸術もこのオリンピック・パラリンピックの機会に提供したいと思っています。本区は小倉百人一首競り、今年5月に「2020インターナショナル小倉百人一首かるたフェスティバル」を行う予定です。講道館の大道場もお貸しいただく予定になっています。この事業は、東京オリンピック・パラリンピック競技大会組織委員会の共催文化プログラムである「東京2020 NIPPON フェスティバル」として位置付けられています。今年は文化プログラムについても努力をしていきたいと思えますし、子どもたちには、スポーツのみならず、このオリンピックに込められた平和や人権を学ぶ場にもしてもらいたいと思えます。

**競技人・指導者としての人生を振り返って**

**司会** 山下会長は、著書の中で、全日本柔道選手権5連覇を達成し、東海大学柔道部のコーチになられたところから、「勝負に対する情熱を失い始めた」と書かれていらっしゃいますが、どういった心の変化がありましたか。

**山下** それまでは自分のことだけを考えて、どうやって自分を高めていくか。ところが、私が学生たちにアドバイスをするに彼らの力になる。指導することの魅力を感じてきました。本来は現役が終わった後に行えばよかったのですが、気持ちがそちらに少し行ってしまった。それから、もしかしたら勝つことに慣れ過ぎたのかもしれないですね。だから、大会になっても燃えない。気合いが入って、気力が充実していくはずの私が淡々と試合をする。それが周りから見ると、非常に隙がないように見えるのですが、本来の私の戦いじゃないと自分でも悩むようになってきました。

**区長** 緊張の状態をずっと続けているのは、やはり難しいだろうと思います。でも、そんなときに<sup>3</sup>齊藤仁さんの存在が情熱を取り戻すきっかけになったということですか。

**山下** 齊藤さんとは三つ違いですけど、私は頼もしく思っていました。私がやめた後は、彼が日本の柔道界を引っ張っていくと思えましたけれど、彼は、「何としても山下を倒したい」という気持ちで向かってきました。ですから、齊藤さんの存在が、私の失いかけた闘争心にまた火をつけたのは間違いないですね。

**司会** 山下会長は、ロサンゼルスオリンピックで優勝して、そのときも既に満身創痍であったと伺っていますが、引退の舞台を全日本柔道選手権に選んだのは、やはり齊藤さんへの思いがあったからでしょうか。

**山下** 全日本柔道選手権に9連覇を目指して出場する理由は、齊藤さんのチャレンジを受けることだけでした。彼が「打倒、山下」で来ているから、私は最後まで逃げないチャンピオンで終わりたい。もう一回彼のチャレンジを受けて、そこで引退する

るのが私の責務だ。ロサンゼルスオリンピックの1年以上前から「国際大会はロサンゼルスオリンピックで終わり」と決めていました。しかし、オリンピックが終わって、最後は全日本柔道選手権、齊藤さんのチャレンジを受けると勝手に決めていました。

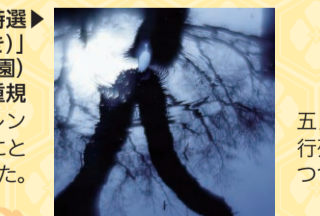
**区長** 全日本柔道選手権では、苦しんだ中、最後は齊藤さんを下して、前人未到の9連覇を山下会長は達成されますが、柔道家、競技人としての人生において、齊藤さんの存在というものは、どのような意味がありましたか。

**山下** よきライバル、そして心から信頼できる友ですね。国内では最大のライバルですけど、海外に行くときには、これぐらい力強い味方はいないです。ロサンゼルスオリンピックのときにも、7日目が齊藤さんの重量級で、8日目が私の無差別級でした。7日目、彼が試合会場に行く前に私の部屋に来て、「先輩、これから行ってきます。必ず勝って戻ってきますので、楽しみにしてください」と頼むぞ、仁と2人で握手をしました。彼が勝って帰ってきて、真先に私の部屋にきました。「先輩、勝ちました。明日頼みますよ」そんな関係でした。だから、彼が道半ばでこの世を去ることは、非常につらかったです。

**準特選** 「国際色豊かな神社」(根津神社) 池田稔幸 鳥居の前で異国の女性たちが日本製のカメラを持ち、着物姿で談笑する取り合わせの面白さに惹かれてスナップしました。



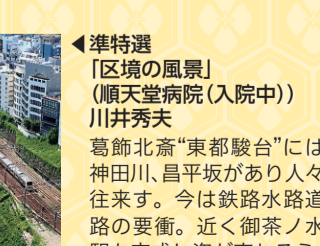
**準特選** 「静かな瞬間(しずかなとき)」(小石川後楽園) 綿谷重規 小石川後楽園のコサギをソフトレンズで撮りました。水面に映った木とまわっているようで美しく幻想的でした。



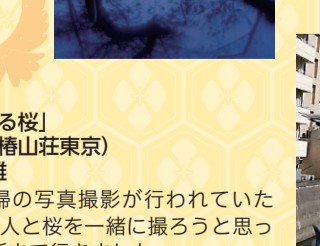
**審査員特別賞** 「満員御礼」(根津神社) 佐藤一夫 五月晴れの根津神社。つつじ苑は大行列。前に進むにも一苦労。咲き香るつつじの花と見物人とで「満員御礼」



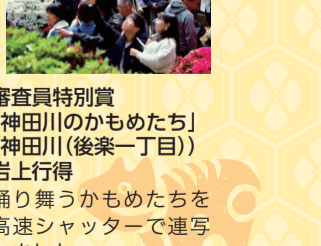
**準特選** 「区境の風景」(順天堂病院(入院中)) 川井秀夫 葛飾北斎「東都駿台」には神田川、昌平坂があり人々往來す。今は鉄路水路道路の要衝。近く御茶ノ水駅も完成し姿が変わろう。



**準特選** 「祝福する桜」(ホテル椿山荘東京) 米倉辰雄 新郎新婦の写真撮影が行われていたので、2人と桜と一緒に撮ろうと思って桜の所まで行きました。



**審査員特別賞** 「神田川のかもめたち」(神田川(後楽一丁目)) 岩上行得 踊り舞うかもめたちを高速シャッターで連写しました。





な形でもいいからぜひこの東京2020大会にかかわってもらいたい。そして、我々みたいに見える世界の頂点を狙うのもスポーツですが、勝ち負けを二の次にした、気持ちよく楽しくやる、これもスポーツです。この東京2020大会を機に、一人でも多くの皆さんが積極的にスポーツに参加され、体を動かして、楽しく気持ちよく汗をかく。そのことを心から願いたいと思っています。

今年、暑い暑い夏にしますので、ぜひ期待してください。

**区長** 山下会長のお話を聞いて、我々区民も頑張らなければならぬという思いになります。選手は、自分の夢の実現のために東京2020大会で頑張ってくれます。我々区民も一緒に頑張って応援を頑張る。そして、何か手伝えることを主体的に自分たちで取り組んで、多くの皆さんに協力してもらえような大会になるといいと思います。皆さんと一緒に東京2020大会の成功に向けて、区としても頑張りますから、区民の皆さんのご協力もお願いしたいと思っております。どうぞよろしくお願いたします。

**司会** 本日はありがとうございます。

**山下・区長** ありがとうございます。



▲対談の様子



\*1 ラッシュン選手：モハメド・ラッシュン。1956年生まれ。エジプトの柔道家。1984年のロサンゼルスオリンピックの柔道男子銀メダリスト。

\*2 ポッチャ：ボールを転がしての玉に近づく感覚のスポーツ。誰でも楽しめるゲーム感覚のスポーツ。

\*3 齊藤仁：昭和36年(1961)、青森県生まれ。1984年のロサンゼルスオリンピック、1988年のソウルオリンピックの柔道男子金メダリスト。

※口述筆記ですが、紙面の都合上、若干の言い回し等の変更と一部省略をさせていただきます。

区長と区民のダイアログカフェ

～世代間交流を豊かにつなげるために 私たちができることは～

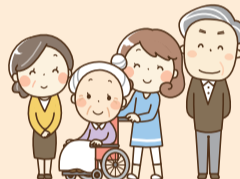
地域の支え合いの実現を図るためのコミュニティの活性化策について、世代間交流をテーマに、区長を交えて意見交換を行います。

日2月27日(木)午後7時～8時30分 会場 cafe BASE(小石川4-21-4) 区内在住・在勤・在学者 定員8人(抽選) 申込はがき又は区民課に住所・氏名・電話番号(在勤者は勤務先・所在地、在学者は学校名も)とお持ちの方はメールアドレスを明記し、〒112-8555文京区広報課 ☎(5803)1129 ☎(5803)1331へ(区民課からも申込可) 日1月31日(金)必着

認知症家族交流会

～訪問診療医から見た在宅介護～

日2月8日(土)午後2時～3時30分 会場 音羽地域活動センター 内容 自宅で認知症家族を介護する上で知りたい悩み&解決策を往診医から学ぶ 講師 平田麻紀子氏(赤羽在宅クリニック医師) 区内在住・在勤・在学者 定員40人(申込順) 費用 無料 申込 電話で高齢者あんしん相談センター大塚 ☎(3941)9678 日1月31日(金)



成人の日記念 はたちのつどい

日1月13日(成人の日・月)午前11時～正午 会場 シビックホール大ホール 区平成11年4月2日～平成12年4月1日生まれの区内在住者 区民課地域振興係 ☎(5803)1170 ※案内状が届かない場合は上記へ



前年の成人のみなさん▶

「はたちの献血」にご協力ください

日1月15日(水)①午前10時～11時30分②午後1時～4時 会場 アートサロン

1月1日(祝・水)～2月29日(土)は、「はたちの献血」キャンペーン期間です。風邪のはやる冬の時期は、血液が不足しがちです。成人式を迎えた方をはじめ、多くの皆さんに、献血のご協力をお願いします。

区民課献血推進協議会事務局(生活衛生課) ☎(5803)1223 東京都赤十字血液センター献血推進課 ☎(5272)3523

文の京・ドイツ文化講座 家族政策、保育行政からみたドイツ

第11回は日本と同じく少子高齢化に悩むドイツの家族政策・保育行政を法律学の視点から紹介します。保育入所をめぐる裁判例や最新の立法を通してドイツ社会やその変化についても考察します。



▲大西楠テア氏

日2月8日(土)午後2時～4時 会場 シビックセンター5階区民会議室 講師 大西楠テア氏(専修大学准教授) 区内在住・在勤・在学者 定員50人(抽選) 費用 500円(受講料) 申込 往復はがき又は区民課に住所(在勤者は勤務先名・所在地、在学者は学校名も)・氏名(ふりがな)・生年月日・電話番号・メールアドレスと返信用にもあて先を明記し、〒112-8555文京区スポーツ振興課 オリンピック・パラリンピック推進担当 ☎(5803)1309 ☎b-dondon@city.bunkyo.lg.jpへ 日1月24日(金)必着

準特選 ▶ 「夏休み ラジオ体操」(神明公園) 米田孝雄 朝日を浴びて、いきいきと体操する子どもたちと周りの風景を逆光で、光と影とが出るように撮りました。



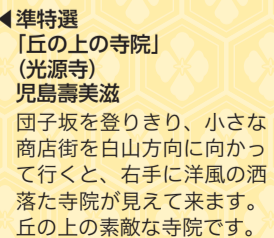
準特選 ▶ 「雨中の羽ばたき」(小石川後樂園) 津布久郁夫 人のいない通路を歩き、嬉しそうに羽ばたきする鴨。雨の日ならではのシャッターチャンスでした。



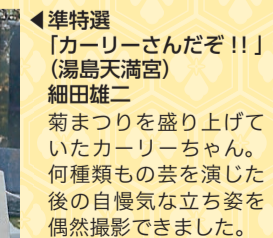
準特選 ▶ 「さくら祭りのよるこび」(播磨坂) 木谷守宏 さくらまつりにさんさ踊りが参加。ミスさんの笑顔と太鼓打ちが輪になった所を桜と見る人を含めて少し高い所より撮りました。



準特選 ▶ 「丘の上の寺院」(光源寺) 児島壽美滋 団子坂を登りきり、小さな商店街を白山方向に向かって行くと、右手に洋風の洒落た寺院が見えて来ます。丘の上の素敵な寺院です。



準特選 ▶ 「カーリーさんだぞ!!」(湯島天満宮) 細田雄二 菊まつりを盛り上げていたカーリーちゃん。何種類もの芸を演じた後の自慢な立ち姿を偶然撮影できました。



準特選 ▶ 「東京ドームシティの夏」(東京ドームシティ) 高木照 真夏の強烈な陽射しを浴びてキラキラと輝く東京ドームシティで遊ぶ人々の姿は、眩しく幸せそうに見えました。

